

昭和58～59年冬期の新潟県の積雪に伴う被害

五十嵐 高志*

国立防災科学技術センター雪害実験研究所

Damage Caused by the Snow in the 1983/84 Winter in Niigata Prefecture

By

Takashi Ikarashi

*Institute of Snow and Ice Studies, National Research Center
for Disaster Prevention, Nagaoka, Niigata-ken, 940, Japan*

Abstract

In the 1983/84 winter the maximum snow depth and total of snowfall amounts considerably exceeded the averages. As a result, damage due to the heavy snowfalls occurred in many places. Snow damage especially in Niigata Prefecture was investigated by using the articles of news paper from December 15, 1983 to July 1, 1984. The details of the articles are as follows: the number of the events due to snow avalanches is 42, that with casualties is 85, that with damage of building is 61, that with damage of railroad is 45.

1. はじめに

昭和58～59年冬期は、各地で寒冷・大雪に見舞われ、地域によっては38豪雪時の積雪の最深値や冬期間の降雪の深さの積算値を越えて、積雪に伴う災害や被害（「以下「雪害」という）が生じた。

昭和58～59年冬期の積雪（以下「59大雪」という）に伴う雪害について、新潟県を中心に調査した。

* 第1研究室

2. 1983～1984年冬期の気象概況

2.1 全国の気象概況

11月中旬から西高東低の気圧配置が現われ、北陸、山陰、九州北部でも初雪を観測し、全国的に早い冬の訪れであった。12月に入ってから、発達した低気圧が北日本を周期的に通過したが、冬型の気圧配置が続き、各地の気温は平年をかなり下回る寒さとなり、特に下旬には山陰地方に記録的な降雪があった。1月および2月は、断続的に冬型の気圧配置が強まり、北陸地方を中心に大雪となった。また、1月下旬から2月上旬にかけて大陸から寒気が次々と本州付近に流れこみ、月平均気温が平年を1～2℃も低下する一方、太平洋側の各地も南岸低気圧通過による大雪となった。特に東京は15年ぶりの大雪となって、交通マヒ、歩行者の転倒事故が続出した。3月に入っても冬型の気圧配置が続き、北海道の道東地方で顕著な降雪を観測した。冬期間を通して全般に低温大雪が続いた。

2.2 新潟県の気象概況

11月の中旬から冬型の気圧配置が現われるようになり、17～18日県内各地で初雪を観測された。下旬は北日本の上空に強い寒気が入り、県下全域が雪の日が多く、低温の日が続いた。12月に入っても西高東低の気圧配置が断続し、上旬は雨、中・下旬は雪の日が続き、山沿いでは中旬に積雪が1mを越えた。1月に入って冬型の気圧配置は一段と強まり、上・中越を中心に大雪が降った。また、大陸から寒気が次々と北日本へ流れこみ、県下は低温が続き、新潟では月平均気温が平年より1.5℃以上も低く7年ぶりの低温となった。大雪で交通機関はマヒ状態となったり、低温による水道管破裂が各地で続発した。2月も冬型の気圧配置が続き、上・中越地方を中心に大雪が降った。上越市の高田では29日に66cmの降雪を観測されるなど、各地で1日の降雪が50cm以上を越えて、積雪が増加した。3月に入っても冬型の気圧配置が続き、新潟では2日に3月の最深積雪の記録を更新した。また、低温の日が続き、月平均気温も各地で平年を下回る低温となった。4月は高気圧と低気圧が交互に通過し、天気は周期的に変化して晴天の日が多かった。しかし、気温の上昇は少なく、平年値を2℃以上も下回る日が多く、異常低温となり、山沿いでは消雪が遅れ、1～2mの積雪が月末にあった。

3. 調査期間および方法

調査期間は、昭和58年12月15日から昭和59年7月1日とした。

調査の方法は、地方新聞「新潟日報」に掲載された雪害の記事を収集した。

調査した雪害を列挙するだけでは、雪害が多岐にわたって発生していることから、59大雪による雪害の実態が把握しにくいいため、雪害の記事を整理・分類して集計した。

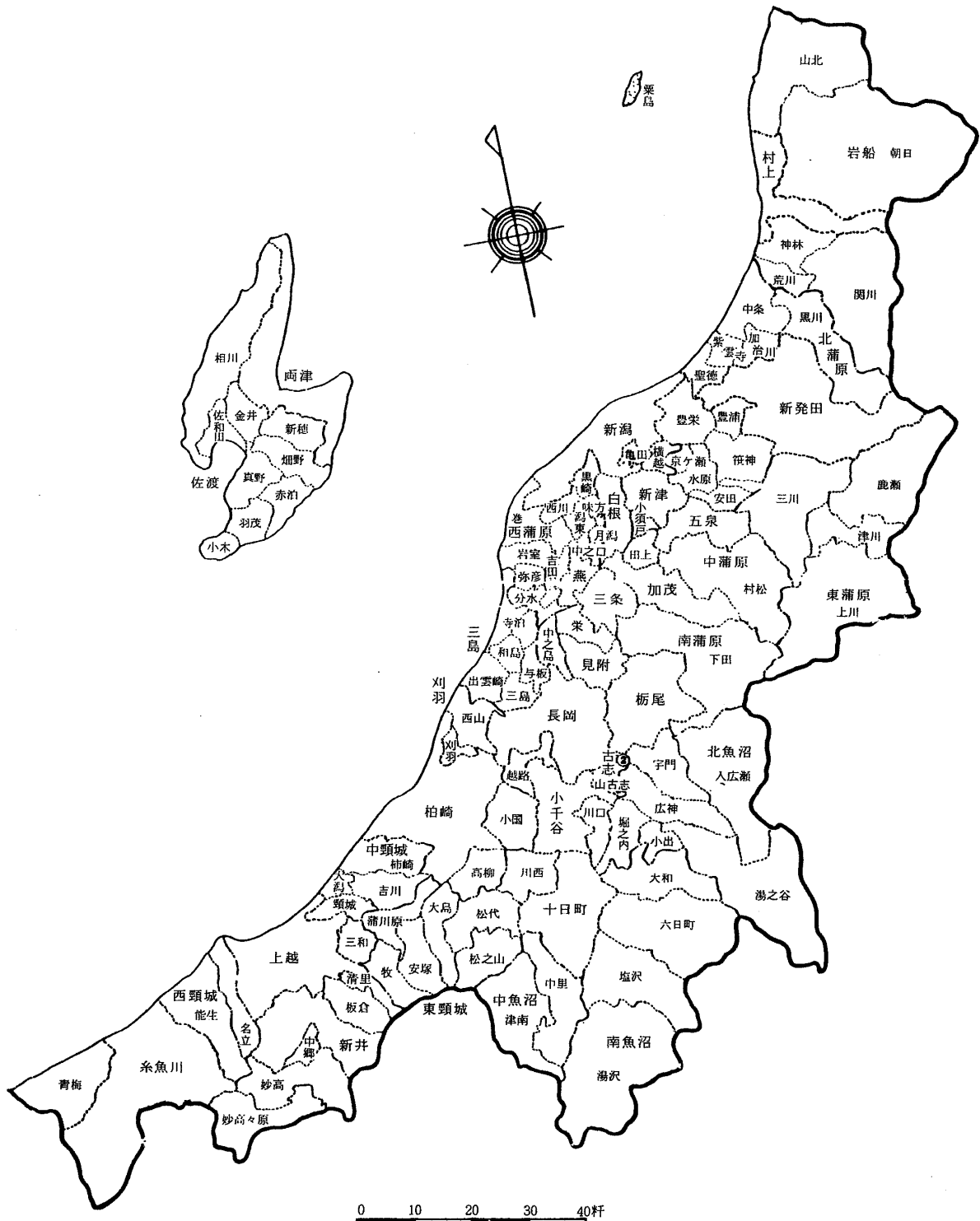


図 1 新潟県の市町村分布図

また、雪害発生地の概略的な位置を見るために、新潟県の市町村分布を図1に示した。

記事の分類は、雪崩による被害の記事、人が死傷した記事、建物・施設が損壊した記事、鉄道の運行が阻害された記事とした。したがって、これらの分類には、雪崩の被害が人の死傷と住家の損壊を伴った場合は、雪崩発生一覧表、人的被害一覧表、建物・施設の雪害一覧表の3項目に重複して整理されている。また、踏切で人が死傷した場合も同様に、鉄道の雪害一覧表と人的被害一覧表に重複して整理されている。

4. 調査結果

4.1 雪崩の被害

雪崩の被害は、雪崩によって人が死傷した記事、住家・建物・施設が損壊した記事、道路交通や列車の運行が阻害された記事をまとめた。

表1に雪崩発生一覧を、また、雪崩発生場所を図2に示した。

表1の種別は、人的被害と建物・施設などの物損被害、交通・通信障害、その他に分けて次の記号で示した。

- W： 作業中の人
- R： 居住者
- T： 通行人・旅行者
- S： スキーヤー・登山者・山菜採り
- B： 建物損害
- C： 交通・通信障害
- O： その他

この分類と記号は、「日本の災害なだれ(Ⅰ)(国立防災科学技術センター編, 1977)」に準拠した。

雪崩の被害(表1)を集計して表2に示した。また、59大雪で雪崩の危険に伴う避難勧告を出した自治体を表3に示した。

4.2 人的被害

人的被害は、家屋周辺・道路・鉄道・工事現場などで、降・積雪や雪崩によって、人が死傷した記事をまとめた。

表4の人的被害一覧表の被害の種別は、被害を引き起した原因から次の細分類をして記号で示した。

- n： 雪崩
- a： 屋根の雪下ろし中に転落

表1 雪崩発生一覧表

年	発生日時		地 名	種 別	被 災 の 内 容
	月 日	時 刻			
1984	1.26	05:00	新潟県東頸城郡大島村下達	B	車、車庫がつぶれた。
"	1.29	不 明	" 中魚沼津南町祖滝トンネル	T・C	国鉄飯山線不通、21時過ぎに復旧。雪の塊に普通列車が突込んだ。
"	1.30	09:00	" 中頸城郡清里村赤池	W	農業用水路復旧工事現場
"	2. 3	18:00	" 糸魚川市大所	C・B	国道148号線、保養所一階と車庫が埋没した。
"	2. 3	22:40	" 南魚沼郡湯沢町湯沢	R	保養所一部損壊、宿泊客2人、救助者5人が負傷した。
"	2. 3	不 明	" 糸魚川市小滝大峰洞門附近	C	国道148号線。バス、トラック、乗用車等14台が立ち往生した。
"	2. 4	"	" 糸魚川市根小屋一県境附近	C	" 所々で雪崩が発生している。立ち往生している車9台を糸魚川へ脱出させた。
"	2. 4	00:30	新潟県南魚沼郡湯沢町貝掛	C	国道17号線。猿ヶ京-石打間50kmを通行止
"	2. 4	00:30	" " 芝原	C	" " は14時間にわたる通行止
"	2. 6	09:30	" 刈羽郡刈羽村赤田町方	T・C	国道8号線。車1台埋没、通行止となったが16時復旧した。
"	2. 6	13:30	" 糸魚川市大平(扇山)	B	住家2戸損壊
"	2. 8	14:00	" 南魚沼郡塩沢町蟹沢	O	民家の近くまで達したため、15時30分に5世帯12人が避難した。
"	2. 9	14:45	" " 上野	B	車庫1棟全壊
"	2. 9	15:頃	" " 湯沢町三俣	T・C	国道17号線。石打-猿ヶ京間50km通行止となった。車3台埋没。運転者は自力で脱出した。
"	2. 9	16:00	新潟県南魚沼郡湯沢町土樽駅正面(荒沢山)	T・C	除雪中のブルドーザー1台の運転手は2時間後に救出された。
"	2. 9	17: 過	" 中魚沼郡中里村清津峡	R・B	旅館2軒全壊、民宿3軒損壊
"	2.13	18: 頃	" 長岡市大積千本町	C	14日10時まで通行止
"	2.16	09: 頃	" 東頸城郡松代町犬伏	T・B・C	国道253号線、通行中の軽自動車1台埋没。同乗者は自力脱出。
"	2.17	11:40	" 小千谷市真人町若栃(下の沢川)	W	護岸工事現場で、作業員3人が生き埋めとなり、1人死亡、2人重軽傷
"	2.17	15: 頃	" 西頸城郡青海町青海	C	国道8号線梁谷洞門附近などの3ヶ所、三段滝洞門など15ヶ所で発生。宮花-市振間14.3km通行止
"	2.17	15: 頃	新潟県糸魚川市小滝西山トンネル	C	大糸線小滝-平岩間不通
"	2.17	21: 過	" 西頸城郡青海町上路	B	住家1戸損壊

表1 雪崩発生一覧表

年	発生日時		地	名	種別	被災の内容	容
	月日	時刻					
1984	2.24	未明	新潟県西頸城郡青海町外波		R	裏山から10㎡の雪が落ち納屋1棟6.6㎡が倒壊、近くの作業小屋と車庫も壊れた。	
"	2.25	09:30	"	東頸城郡松之山町湯山	T.C	通過中のバス1台埋没、同乗者は自力で脱出、6時間通行止となった。	
"	2.28	06:40	"	南魚沼郡湯沢町元橋	T.C	国道17号線、通行中の車4台と除雪車が埋没した。	
"	2.28	07:30	"	" 三國(火打峠)	T.C	国道17号線の火打峠付近で2ヶ所発生し、通過中の大型トラックなど4台が埋没、大型トラックは破損した。	
"	2.28	12:20	新潟県南魚沼郡湯沢町貝掛		C	国道17号線は神立-猿ヶ京間50kmが通行止	
"	2.28	12:20	"	" 三俣	C	"	
"	2.29	04:頃	"	" 湯元	R.B	住家2戸全壊、旅館など3軒損壊	
"	2.29	04:頃	"	" 堀切	T.C	送電鉄塔損壊、通行中の大型ダンプ横転、国鉄上越線まで押し出した。	
"	3.6	19:過	"	" 三俣	C	12戸が一時孤立したが、21時に1車線通行を確保した。	
"	3.7	11:頃	"	北魚沼郡広神村今泉	T.C	通過中の軽トラックが雪に衝突した、運転者はフロントガラスをやぶって脱出した。	
"	3.9	12:30	"	刈羽郡高柳町門出	C	県道、松代-高柳線30分間通行止	
"	3.9	夜	"	小千谷市山本(吉平)	C	国道117号線、1時間余り通行止	
"	3.18	13:10	"	" "	T.C	通過中のワゴン車埋没、運転者は1時間後に救出された。	
"	3.20	09:30	"	北魚沼郡川口町武道窪	S	救出2時間後に1人、13日後に1人死亡した。	
"	3.27	18:30	"	新発田市上赤谷	C	国鉄赤谷線	
"	3.28	14:15	"	東頸城町松代町松代	C	国道253号線	
"	4.5	06:30	"	" 大島村中野	C	県道、上越-安塚-松之山線、雪崩防止柵3基を倒壊	
"	4.29	14:過	"	十日町市下組雨池(水口沢)	S	山菜採り中埋没、首の骨を折って即死。	
"	5.8	午後	"	" 北鏡坂(大倉山)	S	" 雪の下敷になって圧死。	
"	7.1	16:過	"	南魚沼郡大和町荒山	S	デトノアインメの下流約700mの水無川右岸で休んでいた山菜採りの女性がブロック雪崩の直撃を受けて圧死。	

昭和 58 ～ 59 年冬期の新潟県の積雪に伴う被害 - 五十嵐

表 2 新潟県内の雪崩被害 (1983 - 1984)

被害の種類別	件数
人的被害	13
交通・通信障害	27
建物・施設の損壊	16

表 3 雪崩の危険で避難勧告

勧告のでた日時		市町村名	世帯	人数	勧告の背景
1984.2.6	正午	新井市	1	3	56豪雪の際、雪崩で納屋が全壊した。積雪 4 m で各所に雪庇が出来て危険な状態となった。
2.7	夜間のみ	北魚沼郡守門村	2	4	役場の指示が住民の注意を促し、早めに避難を自主的にした。
2.8	15:30	南魚沼郡塩沢町	5	12	部落西側の山から 200 m の表層雪崩が発生して民家の 20m 手前まで泊ったため。
2.9		南魚沼郡湯沢町	21	不明	2月9日から4日間、町保養センターなどに避難させた。
2.10	13:10	中魚沼郡中里村	5	15	やまめ降雪と山側雪庇が大きくなったため。
2.12	12:00	西頸城郡青海町	3	5	向山の中腹に 4, 5ヶ所にわたって 10数m の亀裂が走って危険になった。56年1月に雪崩で工事作業員 2 人が生き埋めになった場所。
2.16	12:00	十日町市	4	11	市の危険箇所調査の結果、未明からの新雪が加わり、積雪、累計降雪深とも 56年を越えたため。
2.28	18:30	南魚沼郡湯沢町	1	不明	28日午前中に小規模の雪崩があったため、リフトの運転を中止して、勧告した。
2.29	夕方	"	20	60	再び雪崩の危険があるため
		7市町村	42	[110]	

表 5 59大雪による原因別死者・負傷者数(人)

被害の種類別	件数	死者	負傷者
雪崩(死傷者をともなったもの)	13	12	17
雪下ろし中に転落	12	3	10
雪が滑落して下敷	9	2	13
積雪の重みで建物が倒壊・下敷	4	1	4
除雪中に雪が崩落して下敷・埋没	2	2	0
川・流雪溝に転落	6	6	0
除雪車による被害	7	3	15
歩行者および作業中の被害	8	4	4
圧雪、凍結、スリップ衝突	9	1	10
吹雪、視程悪化	4	0	6
踏切で立ち往生、列車にひかれる	10	3	0
木の枝、電柱の腕木・はりからの落雪	3	1	3
その他(枝下ろし作業中転落)、ガス中毒	3	5	1
合計	90	43	83

被害一覧表

災	の	内	容
			詰まった雪を取り除こうとして右手を巻き込まれ手首を切断した。男性（57才）
			て6 m下のコンクリート地面に転落、首の骨を折って即死した。男性（54才）
			首の骨を折って死亡した。男性（72才）
			道路に頭を強く打って死亡した。男性（71才）
			傷をおった。男性（75才）
			落、流されて水死した。男子（10才）
			いるビーム（はり）から落ちた雪で運転席の窓ガラスが割れ、ガラスの破片で顔や手首を
			2 週間のけがをした。女性（29才）
			って2ヶ月の重傷。男性（47才）
			かり、割れた窓ガラスで12人が顔や手足に10日～5日間のけがをした。雪による列車の遅
			絡が不徹底になったらしい。女性（19才、63才、20才、20才） 男性（70才、45才、66才、
			ため正面衝突した。1人は頭など強打して即死。男性（36才）。1人は右足骨折などで重
			にはねられ、車の間にはさまれて2人が腕や足などを打って3週間のけがをした。男性。
			作業員が右腕打撲で1週間のけがをした 男性（28才）
			追突して、右足の骨を折る重傷を負った。男性（21才）
			の雪の塊が排雪作業員に当り、腰部骨折で1ヶ月の重傷を負った。男性（48才）
			しをしていて、3 m下の路上に滑り落ち腰の骨などを折る重傷を負った。男性（46才）
			が巻き込まれて死亡した。女性（41才）
			が、滑り落ち、排雪用ダンプカーにひかれて足の骨など折る3ヶ月の重傷を負った。女子（9
			車にはねられ、脳内出血で意識不明の重体。女性（68才）
			トンの雪塊が落下し、通行中の車のフロントガラスが割れ、右手などに軽いけがをした。

発生年月日	場 所	種別	被
1984. 1. 31	上 越 市	a	男性(26才) 事務所の屋根の雪下ろしをしていた作業員がト
2. 1	十日町市	g	男性(50才) 散歩に出て誤って雪に埋もれた河原に転落, 凍
2. 1	中頸城郡妙高村	h	雪のため道幅が狭く, 3~4cmの圧雪のある道
2. 1	三 条 市	b	一時停止していた車に高さ7mの屋根から雪が
2. 2	西頸城郡能生町	b	雪囲い中に, 屋根の雪が滑り落ち作業員が頭に
2. 3	北魚沼郡広神村	g	国道の消雪パイプを点検していた作業員が車に
2. 3	見 附 市	a	屋根の雪下ろし作業中に足を滑らせ, 2m下の
2. 3	白 根 市	g	車をよけるため雪の壁に上っているうち足を滑
2. 3	南魚沼郡湯沢町	n	保養所の裏山で表層雪崩が発生し, 窓ガラスを 負った. 男性(42才, 28才, 35才, 65才, 25才)
2. 3	長 岡 市	g	仕事先で飲酒後帰宅途中, 軒下の雪の中で転倒
2. 4	岩船郡朝日村	i	吹雪で見通しの悪い中を走行中, 下校途中の小 男子(7才, 7才, 7才)
2. 5	新発田市	a	雪下ろし作業員が一服するため屋根から降りる をした. 男性(58才)
2. 5	柏 崎 市	j	雪のため車が踏切で立往生, 特急と衝突した. (46才)
2. 5	新発田市	i	チェーン掛けをしていたところ, 雪でスリップ 男性(25才)
2. 6	上 越 市	h	下り坂でスリップして対向車線に入り正面衝突
2. 6	西蒲原郡弥彦村	h	スリップして対向車線に入り正面衝突し, 左足
2. 6	西頸城郡能生町	b	除雪作業中, 屋根に積もった1.3mの雪が落ち,
2. 8	南魚沼郡塩沢町	a	屋根の雪下ろし中, 6mの屋根から雪とともに
2. 8	上 越 市	l	アパートの父子3人が一酸化炭素中毒死, 1人 たものとみている. アパートは2mの雪に埋も 子(11才), 重体 女性(37才)

災 の 内 容

タンぶき屋根で足を滑らせ、2.5 m 下のコンクリート床に転落、頭の骨などを折って重体。

死した。男性（61才）

路で18mスリップして正面衝突。骨盤を折るなど3～4ヶ月の重傷。男性（32才）

落ち、運転者が頭を打って軽いけがをした。男性（42才）

軽い打撲傷を受けた。男性（57才）

はねられ、頭などに3ヶ月の重傷。男性（57才）

雪の上に落ち、腰の骨を折って3ヶ月の重傷。男性（52才）

らせ、車に接触されて右足打撲。男子（7才）

直撃、宿泊客2人と救助しようとした人5人がガラスの破片で1週間から10日間の切傷を
）女性（35才，32才）

したか寝こんだかして凍死した。男性（39才）

学生の列の中に車が突込んで、2人が大腿部打撲で1週間、1人が腰を打って入院した。

際、はしごから足を踏みはずして、2.5 m 下のコンクリート面に落ちジン臓破裂の大けが

運転手は1.3 mの雪壁を越えてはね飛ばされ、1 m近くも雪に埋もれて死亡した。男性

して対向車線に入ってきた車にはねられ、骨盤骨折などで重傷、吹雪で視界が悪かった。

し、骨盤骨折などで3ヶ月の重傷。男性（31才）

骨折などで2ヶ月の重傷。男性（54才）

下敷となって手足に軽い凍傷と胸部に打撲傷を負った。女性（58才）

滑り落ち、雪に埋まって窒息死した。

が意識不明の重体。前夜から吹き荒れた風が換気口から風呂場に入り、不完全燃焼になっ
れており、8日の朝も猛烈な地吹雪に見舞われていた。死亡者 男性（38才，7才），女

発生年月日	場 所	種別	被
1984. 2. 9	南魚沼郡湯沢町	n	上越線土樽駅正面の荒沢山で大規模な雪崩が発
* 2. 9	中魚沼郡中里村	n	清津峡温泉で大規模表層雪崩が発生，7人が生 軽傷 男性（28才）
2. 9	刈羽郡小国町	a	三階建て自宅屋根の雪下ろし中に9 m下の道路
2. 9	燕 市	f	除雪した雪を運ぶダンプカーがバックして老女
2. 9	中頸城郡頸城村	i	除雪車の後を除行していた車に二重衝突し，1
2.10	新 潟 市	f	除雪中のショベルカーがバックした際，園児が
2.11	柏 崎 市	a	作業小屋の雪下ろし中に転落，ひさしに左脇腹
2.12	小千谷市	a	二階の屋根の雪下ろし中，屋根からせり出した
2.12	十日町市	a	四階屋上を除雪していた作業員が屋根から1 m 傷，男性（40才）
2.12	柏 崎 市	a	住宅の屋根の雪下ろし中転落して，セキツイ圧
2.13	”	b	道路わきの家の高さ1.7 mの屋根から雪が落下
2.17	小千谷市	n	護岸工事現場で全層雪崩が発生し，作業員3人 重傷（全身を打って1ヶ月）男性（53才），軽
2.20	北蒲原郡豊浦町	b	新築中の高さ14mの建物の屋根から雪が滑り落 腰打撲などで全治2ヶ月 男性（43才），打撲 才）
2.20	糸魚川市	b	除雪作業中，屋根から落ちた2 m ² の雪に埋もれ
2.20	岩船郡神林村	a	屋根の修理のため屋根の除雪中，誤って6 m下
2.21	南魚沼郡湯沢町	b	通行中の車に地上10mの屋根から長さ3 m，幅 10日間，女性（30才）頭を打って3日間
2.23	新 津 市	i	猛吹雪の国道403号線新津－吉田間で，乗用車 男性（60才）
2.23	新 発 田 市		木造平屋住宅が全焼，雪に阻まれ逃げ場を失っ
2.26	中魚沼郡津南町		トタンぶき木造二階建て延べ57.75 m ² を全焼，
2.27	岩船郡山北町	e	県道わきの高さ80cmの除雪壁で遊んでいるうち
2.28	南魚沼郡湯沢町	n	国道17号線で雪崩が発生し，除雪車の運転手が

* 清津峡雪崩防止柵工事現場（高さ約270 m，斜面勾配45°）で，1984年9月27日，柵

災	の	内	容
			生，4人が生き埋めとなったが1人軽傷，他は無事。軽傷 男性（43才）
			き埋めとなり一家5人死亡，1人軽傷。死亡 男性（58才，4才，1才） 女性（28才，83才）
			に転落，頭の骨を折って意識不明の重体。男性（32才）
			（69才）をはね，心臓破裂で死亡させた。
			人が手首をねん挫するなど2週間のけが。吹雪で視界が悪かった。男性（25才）
			ひかれ死亡した。男児（5才）
			を打って肋骨骨折で1ヶ月の重傷。男性（75才）
			雪庇に誤って乗って一階の屋根に転落，胸の骨を折って1ヶ月の重傷。女性（48才）
			せり出した雪庇に誤って足を踏み出し，10m下の雪山に転落，腰の骨を折って2ヶ月の重
			迫骨折で重傷。男性（53才）
			，通行中の園児が埋没，左手首に打撲傷を負った。男児（4才）
			が生き埋めとなった。1人が死亡，2人が重軽傷を負った。死亡（心不全）女性（43才），
			傷（右足打撲）女性（43才）
			ちて，下で作業していた男女6人の作業員が生き埋めとなった。窒息死 男性（55才），
			で全治2週間 男性（50才），女性（40才），5～3日の軽傷 女性（36才），男性（55
			，窒息死した。女性（74才）
			に転落，頭を強く打って意識不明の重体。男性（35才）
			5 m，高さ30cm，5 m ² の雪が落下し，2人がけがをした。男性（49才）前歯1本折るなど
			，トラック，ライトバン7台が2ヶ所で次々玉突衝突し，社員が1ヶ月のけがをした。
			て焼死した。男子（8才）
			玄関と間違え窓から逃げようとしたが雪壁で出られず，焼死した。男性（62才）
			，4 m下の川に転落，1時間後に150 m下流で水死体で発見された。男児（3才）
			顔に軽い打撲傷を負った。男性（不明）
			の建設作業中の作業員が誤って約25m転落，首の骨を折って死亡した。男性（55才）。

発生年月日	場 所	種別	被
1984. 2. 29	柏 崎 市	g	国道を歩いていて道路わきの雪に足をとられ転倒
2. 29	南魚沼郡湯沢町	n	布場スキー場横手の斜面で長さ200m, 幅70m 頭や腕などに軽傷を負った。女性(44才, 68才)
3. 4	古志郡山古志村	k	立木から落ちた雪が住宅の窓を破って直撃, 居間 にいた小学生(女子, 10才)は折れた柱に胸をは
3. 6	十日町市	f	ブルドーザーで採石場内の除雪作業中, 運転を誤
3. 6	岩船郡神林村	b	カヤぶき屋根から雪が滑り落ち, 約23㎡の下屋を
3. 9	南魚沼郡大和町	c	牛舎の雪下ろし作業中, 入口ひさしの下屋約80㎡
3. 9	上 越 市	c	木造作業小屋3.3㎡が屋根雪の重みで倒壊。中で
3. 10	”	c	木造一部二階建て103㎡の事務所で屋根の雪下ろ 負った。首を打って2ヶ月のけが(38才), 左手
3. 13	上 越 市	e	酒を飲んで帰宅途中, 雪道で足を滑らせて川に転
3. 15	”	j	国鉄信越線沿いの積雪3mの雪山で, ソリ遊び中
3. 18	小千谷市	n	国道117号線山本山東側斜面の高さ80m付近から 両足と右手に軽いけがをした。男性(41才)
3. 20	北魚沼郡川口町	n	耕地沢地内の斜面でスキーをしていた小学生2人 時間後に死亡した。スキー中に兎を見つけ, 追い
3. 21	栃 尾 市	d	自宅玄関前で除雪作業中, 崩れた雪の下敷きにな
3. 24	”	d	自宅車庫わきの道路をトンネルを掘るように除雪
3. 28	”	l	高さ13mの桐の下の枝下ろしの作業中, 誤って雪
3. 28	東頸城郡松代町	n	国道253号線で起きた雪崩約25㎡に巻き込まれ埋
3. 29	栃 尾 市	e	しみ渡り中, 厚さ1cmの氷が割れ, 水深1.3mの
3. 30	中魚沼郡津南町	e	手足の不自由な老女(74才)が自宅前の消雪用用
4. 3	刈羽郡小国町	e	川岸沿いに積った雪の上でスノーボードに乗って 女兒(5才)
4. 9	南魚沼郡六日町	g	ひとりで走り出した無人の木材運搬用トラック
4. 29	十日町市	n	山菜採りの主婦が雪崩に巻き込まれ, 首の骨を折
5. 8	”	n	山菜採りに行って約3㎡の雪崩の下敷になって,

災	の	内	容
			し、車にはねられ両ひざ下を折る重傷。男性（55才）
			、厚さ50cmの表層雪崩が発生、2家族5人が生き埋めとなった。全員救出されたが3人が
			）、男子（16才）
			間のコタツに入っていた老女（68才）が雪に埋まり、救出されたが間もなく窒息死。一緒
			さまれ、1週間の打撲傷を負った。
			り、高さ6mの砂利と雪の山から転落、右肋骨骨折などで1ヶ月の大けが。男性（52才）
			つぶした。中に居た男性（62才）が腰を強く打って1ヶ月半のけが。
			がつぶれ、雪とともに落下、30分後に心不全で死亡した。男性（40才）
			作業していた女性（34才）が下敷になり、手を強く打って10日間のけが。
			し作業中、二階部分26㎡が雪の重みで抜け落ちた。作業員3人が落下して2人が重軽傷を
			に軽いけが（33才）。
			落、深さ25cmの水の中で凍死した。
			、誤って線路に落ち進行してきた急行にひかれて即死。女兒（4才）
			約300㎡の雪崩が発生し、通過中の車が巻き込まれた。運転者は1時間後に救出されたが
			が雪崩に巻き込まれ、男子10才（小4）は救出13日後に死亡、女子7才（小1）は救出2
			かけて沢に入り雪崩に遭った。
			り、1時間後に救出されたが翌日病院で死亡した。男性（59才）
			していて頭上から崩れた約4㎡の雪に埋まり、窒息死した。男性（55才）
			の上に頭から転落、そのまま身動きがとれず窒息死した。男性（73才）
			まった。軽いけがだけで救出された。男児（5才）
			かんがい用水池に落ちて水死した。男子（9才）
			水堀（幅1m、水深40cm）に誤って転落、水死した。
			いたところ、誤って川に転落、流されて行方不明となったが、6月6日遺体で発見された。
			と高さ3mの雪壁の間にはさまれ、内臓破裂で死亡した。男性（33才）
			って即死した。女性（59才）
			圧死した。男性（56才）

発生年月日	場 所	種別	被
1984. 5. 9	北魚沼郡入広瀬村	f	ダム工事現場で除雪車を誘導中20m下の川へ転
5. 18	十日町市	l	山菜採りの男性が雪溪のすき間に転落, 凍死し
7. 1	南魚沼郡大和町	n	山菜採りの女性が約10m ³ のブロック雪崩の下敷

- ~~~~~
- b : 屋根の雪が滑落して下敷
 - c : 屋根の積雪の重みで建物が倒壊・下敷
 - d : 除雪中に雪が崩壊して下敷・埋没
 - e : 川・流雪溝に転落
 - f : 除雪車による被害
 - g : 歩行者および作業中の被害
 - h : 道路の圧雪・凍結によりスリップ被害
 - i : 吹雪・視程悪化
 - j : 踏切・列車等による被害
 - k : 屋根を除く高所からの落雪による被害
 - l : その他の被害

この細分類は、雪害の原因を明確にするために、また、記号は集計を簡便にするために用いた。

人的被害(表4)を集計して表5に示した。表中のその他の欄に示した死傷者には、吹雪時のガス使用で、不完全燃焼によるガス中毒死3名が含まれている(表4, 1984年2月8日, 上越市)。

雪崩による人的被害の内訳を、表1の被害の種別によって集計して、表6に示した。

4.3 建物・施設の雪害

建物・施設の雪害は、降・積雪や雪崩によって、家屋・工場・車庫・車・施設などの物損および停電や浸水などの記事をまとめた。

表7の建物・施設の雪害一覧表の被害の種別は、被害の形態によって、次の分類をして記号で示した。

- a : 屋根の積雪の重みで倒壊
- n : 雪崩
- b : 浸水
- c : 上水道の断水
- d : 停電

災 の 内 容
落，胸部圧迫で死亡した。除雪車と衝突したかはさまれたらしい。男性（60才） た。（73才） 10月15日遺体発見 になって圧死した。女性（37才）

表 6 雪崩による人的被害の内訳

死 傷 者 の 種 別	死 者 (名)	負 傷 者 (名)
作業中の人 (W)	2	2
居 住 者 (R)	5	11
通行人・旅行者 (T)	0	4
スキーヤー・登山者・山菜採り (S)	5	0
そ の 他 (O)	0	0
合 計	12	17

死傷者を含めて遭遇者 45 人のうち 16 人が無事であった。

e : その他

建物・施設の雪害（表 7）を集計して表 8 に示した。住家の全壊は雪崩のみであった。

4.4 鉄道の雪害

鉄道の雪害は，降雪・積雪の急激な増加や雪崩によって，列車の運行が阻害された記事や踏切で雪のため車両が立ち往生して列車と衝突した事故や駅構内の列車運行施設の機能低下による列車運行不能の記事をまとめた。

また，雪害の発生場所の概略的な位置を図 3 に示した。

表 9 の鉄道の雪害一覧表は，新潟県内と隣接県および新幹線の雪害も含めて示した。鉄道の雪害の種別は，雪害の内容・形態・状況などから分類して次の記号で示した。

n : 雪 崩

a : 踏切事故

b : 吹きだまりや大雪で列車が立ち往生

c : その他

鉄道の雪害（表 9）を集計して表 10 に示した。表中のその他の欄には，東海道・山陽新幹線で長期間にわたって，列車の間引き運休や遅延が続き，広範囲の多くの利用者に影響を与えた記事も，雪害として取り扱った。

表7 建物・施

発生年月日	場 所	種別	被
1984. 1. 16	西頸城郡能生町	a	木造・鉄骨平屋一部二階建て1棟288㎡の山菜
1. 19	糸魚川市	c	落石で道路に埋設してある送水管が破損し、14
1. 22	小千谷市	a	396㎡のコンクリートブロック製造工場の屋根
1. 23	糸魚川市	a	木造平屋建て1,000㎡の製材工場が屋根の雪下
1. 25	南魚沼郡大和町	e	長さ44m、幅23mのプール施設を覆う鉄骨が倒
1. 26	東頸城郡大島村	n	県道附近で雪崩が起き、車庫と車が押し流され
1. 27	西頸城郡能生町	a	鉄骨平屋建て55㎡の農協雑品庫が屋根の雪の重
1. 27	東頸城郡牧村	a	木造平屋建て60㎡の車庫が雪の重みで倒壊、中
1. 28	中頸城郡頸城村	a	木造トタンぶき車庫30㎡が雪の重みで倒壊、中
1. 28	東頸城郡浦川原村	c	簡易水道の配水管が雪の重みで折れ、200世帯
1. 28	“ 大島村	c	水道の導水管が雪のため破損し、保倉地区で断
1. 29	“ 松代町	a	木造平屋建てかやぶき1棟100㎡が屋根の雪の
1. 30	刈羽郡小国町	a	小学校の体育館の屋根瓦が130cmほど積ってい
1. 31	中頸城郡三和村	c	村営上水道管(直径75cm)が破裂し、500戸で
1. 31	新潟市	d	中心部の住宅1,400戸が30分～1時間半停電し
2. 3	新発田市	a	鉄骨平屋建て360㎡の車庫が雪の重みで倒壊し
2. 3	南魚沼郡湯沢町	n	保養所の裏山で表層雪崩が発生し、3階の窓が
2. 3	糸魚川市	n	国道148号線で表層雪崩が発生し、近くの保養
2. 5	“	b	奴奈川用水下流に雪が詰ったところへ雪解け水 通行止にした。
2. 6	糸魚川市	b	5日夜から6日朝にかけ50cm以上の降雪に見舞
2. 6	西頸城郡能生町	c	水道管が凍結したり破裂したりして、5地区1
2. 6	糸魚川市	n	扇山で幅60m、長さ180m、厚さ4mの表層雪
2. 7	栃尾市	b	各所で流雪溝がいつ水し、床上浸水4戸、床下
2. 9	中魚沼郡中里村	n	清津峡温泉で大規模雪崩が発生し、旅館2棟全
2. 9	糸魚川市	a	木造倉庫120㎡が雪の重みで倒壊、落ちた雪で

設 の 雪 害 一 覧 表

災	の	内	容
加工工場が屋根雪の重みで半壊した。			
世帯40人の簡易水道が断水した。復旧には2～3日かかる見込み。			
の一部52.8㎡が雪の重みで陥没した。			
ろし中に雪の重みで一部(130㎡)倒壊した。			
壊した。			
た。			
みで倒壊した。			
にあった車3台が大破した。			
の乗用車とジープがつぶれた。			
が5時間にわたって断水した。			
続的な断水が続いている。			
重みで倒壊した。			
た雪とともに300㎡落下した。			
給水不能となった。復旧は1日の見込み。			
た。ベタ雪で配電線の接続部分がしめつけられ傷つき、ショートしたため。			
、乗用車2台が大破した。			
ラスを突き破って、15㎡の雪が客室を直撃した。約10枚のサッシュ戸がこわれた。			
所に雪が押し寄せ、1階の浴室、渡り廊下の窓ガラス4枚が割れ、車庫が埋まった。			
がどっと入り込み、あふれ出した水で1戸床上、3戸床下浸水、都市計画街路南本町線を			
われ、用水路に捨てた雪がつまり、3戸床上、28戸床下浸水した。			
00戸が断水した。			
崩が発生し、住宅2戸を一部損壊した。			
浸水5戸の被害が出た。			
壊、民宿3棟損壊した。			
となりの住宅のサッシ窓4枚を損壊した。			

発生年月日	場 所	種別	被
1984. 2. 9	南魚沼郡塩沢町	n	国道をはさんだ向いの山から長さ50m, 幅150
2. 9	糸魚川市	a	木造倉庫132㎡が屋根に1.5m積もった雪の重
2. 10	中頸城郡中郷村	a	車庫兼玄関部分約25㎡が屋根に積もった約2m
2. 10	” ”	a	岡沢寺本堂のトタン張り屋根130㎡のうち約3
2. 11	新 井 市	a	木造一部二階建て納屋91㎡が, 屋根から落とし
2. 11	中頸城郡妙高村	a	木造平屋建て自動車車庫73㎡が屋根から滑り
2. 12	東頸城郡安塚町	a	木造一部二階建て住宅の玄関, 居間附近約33㎡
2. 16	西頸城郡能生町	a	木造一部二階建て集会所99㎡のうち2階部分50㎡
2. 17	” 青海町	n	裏山で雪崩が起き, 約10㎡の雪が木造平屋建て
2. 19	刈羽郡小国町	a	木造平屋建て空家の玄関部分17㎡が雪の重みで
2. 20	西蒲原郡巻町	a	木造カヤぶき約206㎡の屋根のカヤが1m近い
2. 23	長 岡 市	a	木造二階建て165㎡の住宅が屋根の雪の重みで
2. 24	西頸城郡青海町	n	裏山から10㎡の雪が落ち, 納屋1棟6.6㎡が倒
2. 25	西蒲原郡巻町	a	木造一部二階建て延べ178㎡の倉庫兼作業小屋
2. 25	新 井 市	a	木造二階建て作業小屋の二階部分約24㎡が約1.
2. 29	南魚沼郡湯沢町	n	温泉街のはずれで表層雪崩が発生し, 民家2棟
2. 29	” ”	n	国道17号線の堀切で表層雪崩が発生し, 送電鉄
3. 4	古志郡山古志村	a	住宅の裏手にあるカシの木(高さ8m, 直径15
3. 5	糸魚川市	a	木造平屋建て原料倉庫約80㎡が屋根に積った約
3. 6	上 越 市	e	盲学校の燈油タンクの直径2cmの油送管が約1 の燈油が農業用水路へ流出し, 2km下流で主婦 宅の二階窓ガラス2枚がこなごなに割れ, 有線 減っていることから消防署に調査を依頼, 油も た.
3. 6	岩船郡神林村	a	カヤぶき屋根から雪が滑り落ち, 約23㎡の下屋
3. 6	長 岡 市	a	木造一部二階建て住宅の二階部分が屋根の雪の
3. 8	十日町市	a	鉄骨平屋建て240㎡の修理工場のトタン屋根1 た雪が約1m積もっており, 重さに耐えられな

災	の	内	容
m, 深さ 1 m, 905 m ³ の雪崩が発生, 車庫を押しつぶした。			
みでつぶれ, 耕運機など農耕車数台が壊れた。			
の雪の重みで倒壊した。			
m ² が約 250cmの積雪の重みでぬけた。			
ひさしまで届いた雪と屋根雪とくっつき引っ張られるかっこうになり倒壊した。			
落ちた雪に壁が押され倒壊, 乗用車 9 台と機械類が大破した。			
が屋根に積もった 2 mの雪の重さで倒壊した。(冬は空家)			
が屋根の重みでつぶれ, 中にあった放送設備等が壊れた。			
24m ² の住宅のサッシのガラス戸を破って入りこんだ。			
つぶれた。屋根の積雪は 4 mほどだった。			
屋根の雪が落ちたはずみで, 骨組を残して全部抜け落ちた。			
全壊した。			
壊, 近くの作業小屋と車庫も壊れた。			
が屋根の雪の重みで倒壊し, 中の乗用車と 2 tトラックがつぶされた。			
4 mの屋根の雪の重みで倒壊した。			
を全壊, 旅館や民家など 3 軒が一部損壊した。			
塔が傾き, 大型ダンプが横転した。			
cm)の枝が雪の重みで折れ, 5 m ² の雪が落下, 一階居間のサッシ窓と柱を壊した。			
1 mの雪の重みで倒壊した。			
ヶ月前に落とした屋根の雪の重みでへの字型に曲り, 1 cmほどの亀裂が入って約 2,700 l			
が段ボールの燃えかすを用水に捨てたところ, 油に引火し数mの火柱が上がり, 近くの住			
放送架線40mを焼き, 加入電話 507本が不通になった。同校では 5 日急激にタンクの油が			
れがわかったため 6 日から使用を禁止していたが, 雪に埋もれていたため点検出来なかつ			
をつぶした。下屋に居た老人が腰を打って 1 ヶ月半のけがを負った。			
重みで半壊した。			
60 m ² が陥没して倒壊した。大型車 2 台, 乗用車 2 台が被害をうけた。数日間降った湿っ			
かった。			

発生年月日	場 所	種別	被
1984. 3. 8	柏 崎 市	a	料理屋の木造二階部分の屋根が1.3mの雪の重
3. 9	”	a	木造平屋建て住宅119㎡が屋根の雪1.5mの重
3. 9	南魚沼郡大和町	a	牛舎の屋根の雪下ろし作業中、入口ひさしの下
3. 9	長 岡 市	a	鉄骨平屋建て330㎡の倉庫が屋根の雪の重みで
3. 9	上 越 市	a	木造作業小屋33㎡が屋根の雪の重みで倒壊した
3. 9	柏 崎 市	a	平屋建ての空家が屋根の重みで倒壊した。
3. 9	”	a	木造平屋建て作業小屋約80㎡が屋根に積もった
3. 10	上 越 市	a	木造一部二階建て約103㎡の事務所の屋根に積 が重軽傷を負った。
3. 10	小千谷市	a	二階建て53㎡の住宅が屋根の雪の重みで全壊し 積もっていた。
3. 11	柏 崎 市	a	倉庫の屋根に積もった約100㎡の雪が落ち、住 の積雪は1m。
3. 18	東頸城郡大島村	b	雨と融雪水で保倉川が増水し、住宅2戸が床下
3. 23	刈羽郡高柳町	e	国道を走っていた乗用車が、路面が凍っていて スリップして突込んだ。
不 明	北魚沼郡湯之谷村	a	木造二階建て250㎡の温泉旅館1棟が、消雪に 続き棟の新館も壁などが破損した。

災 の 内 容

みで崩れ、大広間83㎡の天井を破ってなだれ込んだ。

みで傾いた。避難勧告された。

屋約80㎡がつぶれ雪とともに落下、作業員が生き埋めとなり心不全で死亡した。

全壊した。屋根には融雪パイプがあったが雪を溶かしきれず約1 mの積雪があった。

中に居た作業員が負傷した。

60cmほどの雪の重みでつぶれた。

もった80cmの雪下ろし作業中、二階部分の屋根26㎡が雪の重みで抜け落ちた。作業員2人

た。全壊した家は大雪にもかかわらず今冬1回も屋根の雪下ろしをしておらず、2.5 mも

宅2戸の窓ガラスを損壊した。さらに雪が落下する恐れがあるため家族は避難した。屋根

浸水、車倉など非住家7棟も浸水した。県道150 mが冠水し交通止となった。

スリップし住家に突込み、玄関の柱やサッシ戸を壊した。5分後に更にトラックが同様に

使っていた温泉と清水を流すパイプが凍結して外れ、山側斜面からの雪の圧力で倒壊した。

表9 鉄道の

発生日時		線名区間		種別	
1984. 1. 7	10:頃	上越	越後川口ー北堀之内	c	和南津トンネルを出た直 や手首をガラスの破片で
1. 16	01:40	山田	浅岸ー大志田	n	貨物列車が雪崩の塊に突 区界間をバス代行した。
1. 16	10:過	山田	松川ー川内	n	3ヶ所で小規模の雪崩が
1. 17	03:35	上越	越後湯沢ー石打	b	大雪のため特急が立ち往
1. 17	14:00	東北新幹	白石蔵王駅ホーム	c	こぶし大の石を含む60数 石をはね上げ、これが列 たとみている。東海道・
1. 19	06:40	信越	荻川ー亀田	a	第1諏訪踏切で、特急と は25分遅れた。
1. 19	10:40	信越	押切駅構内	c	ロータリー車の排雪で通 列車運行と除雪作業の連
1. 24	26日 夜ー朝	信越	直江津駅構内	c	同駅構内で24日夜から25 となり、25日、26日マヒ
1. 25	07:45	信越	柿崎ー上下浜	a	正直踏切で、普通列車と 車は大破したが運転者は
1. 26	01:30	信越	春日山駅構内	c	構内の踏切で雪のため急
1. 29	不明	飯山	越後田中ー津南	n	岨滝トンネル入口附近で 40)。乗員、乗客は無
1. 29		東海道・ 山陽新幹		c	積雪のため上下180本の
1. 31		東海道・ 山陽新幹		c	大雪のため始発から1～
2. 3	16:30	信越	妙高高原ー関山	b	貨物列車が登り坂を上れ
2. 4	04:10	上越	越後湯沢ー石打	b	特急が新雪にはばまれて
2. 4	08:30	上越新幹	新潟車両基地内	c	上り線でポイント凍結で
2. 4	08:40	上越新幹	新潟駅構内	c	下り線でポイント凍結で

雪 害 一 覧 表

障 害 の 内 容 と 原 因
後に架線を吊っているビーム（梁）から落ちた雪で、運転席の窓ガラスが割れ運転手が顔切った。同列車は運転手を交代して30分遅れて発車した。
っ込んで、機関車2両、貨車1両が脱線した。復旧には2～3日かかる見込のため盛岡—
発生した。区界—川内間で2時間にわたりバス代行した。
生した。同区間は1日中運行不能となった。
個の氷が飛び散った。積雪地帯のバラスト軌道を通じた際、車体の雪や氷が落下して小車の雪にめくれ込んで凍りつき、走行しているうちに石を含んだ氷が落下してはね飛ばし山陽新幹線でもたびたび起っていた。
雪のため立ち往生したワゴン車が衝突した。ワゴン車は大破したが運転者は無事。同列車
過した電車3両の窓ガラス45枚を割った。乗客12人が顔や手足に10～5日間の負傷をした。絡不徹底が原因か。
日朝まで80cm、26日朝まで140cmの降雪があり、レールのポイント123ヶ所の確保が困難状態に陥った。
雪のためスリップして左先頭部が踏切に入ったまま立ち往生した乗用車が衝突した。乗用無事、列車は20分遅れた。
行列車の先頭車両の二軸の輪が左側に脱線した。乗客はバス代行で長野へ輸送した。
雪崩が発生し、線路を埋めた雪塊の中へ普通列車が突込み、先頭車両が乗り上げた（00：事。
列車が午前は1時間40分から1時間前後、午後は20～25分遅れて23万人の足に影響した。
6時間遅れた。また上下26本を運休した。乗客18万人の足が乱れた。
ず立ち往生した。2時間後に復旧した。
立ち往生した。同列車は3時間35分遅れた。
作動せず13分遅れた。
作動せず13分遅れた。

発生日時		線名区間		種別	
1984. 2. 4	11:14	上越	前川駅近く	a	第2青島踏切で急行列車転者は無事。列車は13分
2. 4	12:25	羽越	坂町駅近く	a	保内踏切で貨物列車と圧左前部小破したが修理を
2. 4	不明	羽越	坂町駅構内	c	冷えこみと吹雪のためポ
2. 5	05:30	信越	安田-北条	a	番場踏切で特急と雪のた車は大破し、ワゴン車の
2. 6		信越	直江津-妙高高原	c	車両故障2件が発生し、
2. 6	08:10	石川線	野町駅構内	c	(北陸鉄道)電車が車止った。
2. 6	17:30	羽越	中条-平木田	b	普通列車が吹きだまりに
2. 6		羽越	吹浦駅	b	列車が吹きだまりに突込
2. 7	09:05	飯山	飯山-蓮	b	列車が吹きだまりに突込
2. 7	14:過	羽越	羽前水沢-三瀬	c	除雪中のロータリー車の乗客230人を乗せたまま
2. 8	11:20	新潟交通	ななほ-吉江	a	(新潟交通電鉄)吉田新かず、渡ろうとした。
2. 8	21:30	信越	犀潟-土底浜	a	渋柿浜踏切で特急と雪の
2. 9	03:頃	上越	石打駅構内	b	急行が50cmの新雪にはば
2. 9	23:頃	上越	湯桧曾-土合	n	北湯桧曾信号所構内で雪
2. 10	08:15	越後	小針-内野	a	寺尾第1踏切で、普通列無事。
2. 17	15:頃	大糸	小滝-平岩	n	西山トンネル附近で雪崩
2. 18	05:25	上越	土樽-中里	c	雪崩警報装置が作動した。
2. 28	01:30	信越	妙高高原-黒姫	b	貨物列車が雪の吹きだま
2. 28	05:過	磐越西	中山宿-沼上	b	貨物列車が雪の吹きだま
2. 28	10:05	上越	北湯桧曾信号所附近	n	雪崩が発生し長さ10m,

障 害 の 内 容 と 原 因

と一時停止して雪のためスリップ立ち往生した乗用車が衝突した。乗用車は大破したが運
停車した。

雪でスリップ立ち往生した乗用車が衝突した。乗用車は大破したが運転者は無事。列車は
して30分遅れで出発した。

イントが故障し、夜行寝台が6時間10分、その他の夜行列車は2～3時間遅れた。

め立ち往生したワゴン車が衝突し、同区間は不通となった。列車はブレーキ故障。ワゴン
運転者は死亡した。

早朝より同区間が不通となった。

めに衝突した。68人が負傷した。ブレーキシステムの故障かレールと車輪の間に雪が入って滑

突込み立ち往生した。附近に道路がないため、乗客280人は車内に6時間30分とじこめら
着いた。

んで立ち往生したため、タイヤが完全にマヒした。

み立ち往生した。12時20分に復旧した。

ウィング（翼）が電柱にぶつかったため停電し、上下線がストップした。このため特急が
鼠ヶ関駅で夜まで立ち往生した。

田踏切で、電車と除雪用グレーダーが接触し47分停車した。警報機が鳴っているのに気づ

ため立ち往生した乗用車が衝突した。乗用車は大破したが運転者は無事。

まれて立ち往生した。6時間後、乗客は新幹線で振替輸送した。

崩が発生し、上り線のレールが長さ40m、高さ2mの雪で埋って不通となった。

車と雪のためスリップして踏切に入った乗用車が衝突した。乗用車は大破したが運転者は

があり、不通となったが、3日ぶり19日15時45分に復旧した。

誤作動で2時間20分後に運転を開始した。

りに突込んで、直江津—長野間が不通となった。

りで立ち往生した。

厚さ1～1.5mの雪で線路がおおわれた。列車の運休や遅れが起った。

発生日時		線名区間		種別	
1984. 2. 28	10: 過	上 越	土合駅構内	n	雪崩が発生し、土樽一水
2. 28	13:30	磐 越 西	日出谷一鹿瀬	a	電工踏切で急行が老人を
2. 29	04: 頃	上 越	越後湯沢一石打	n	掘切で発生した大規模雪
3. 1	06:05	羽 越	羽後本荘駅近く	c	普通列車と特急がすれち が舞い上ってガラスにぶ
3. 8	10: 頃	信 越	直江津駅構内	c	レールのポイントが次々
3. 13	04:20	上 越	浦佐一五日町	c	ラッセル車が排雪板を橋
3. 27	18:30	赤 谷	東赤谷一赤谷	n	東赤谷より 1.6 km新発田
4. 30	20:30	田 沢 湖	田沢湖一赤淵	n	志渡内信号所構内で雪崩

表8 59大雪による建物等の被害

被害の種別と程度			戸・棟・台数
a. 屋根の雪の重みで倒壊	住 家	倒 (全) 壊	0
		半・一部損壊	12
	非 住 家	倒 (全) 壊	17
		半・一部損壊	12
	車		20
n. 雪 崩	住 家	全 壊	4
		半・一部損壊	11
	非 住 家	全 壊	6
		半・一部損壊	0
	車		19
b. 浸 水	住 家	床 上	8
		床 下	38
	非 住 家	床 上	0
		床 下	7
c. 上水道の断水(半日から数日間)			814
d. 停 電(30分から1時間30分)			1,400
e. その他の住宅の半・一部損壊			3

障 害 の 内 容 と 原 因

上間が不通となったが、12時50分復旧した。

はねた。

崩が国鉄上越線まで押し出したため午前10時まで列車は全面ストップした。

がった際、特急の右側窓ガラス9枚がひび割れた。双方の列車に着いた雪か線路上の小石
つかったらしい。

動かなくなった。列車のスノープランからの振動による落雪が原因。

のらんかんにぶつけ立ち往生した。

よりで雪崩が起り、一時不通となった。

が起り不通となったが、5月1日18時復旧した。

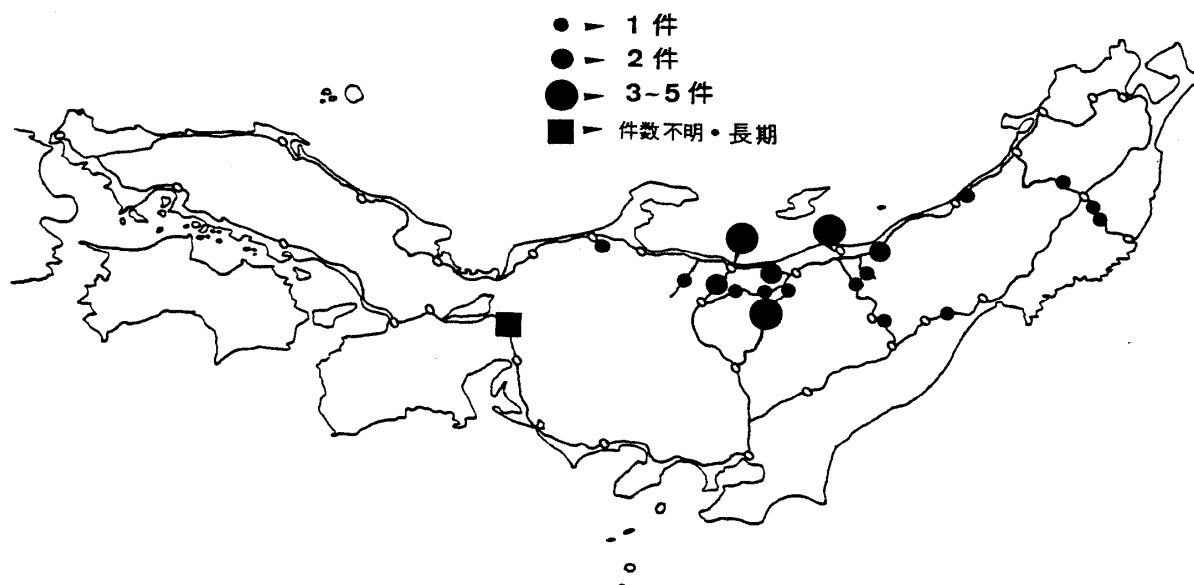


図3 1983～1984年冬期の鉄道の雪害発生分布図

4.5 その他の雪害

冬期間の火災は、今回の調査では扱っていない。しかし、積雪期間中の火災発生は、積雪のため消火活動が阻害され、被害が増大したり、家屋周辺が積雪で逃げ場所がないため焼死するケースが起っている（表4，1984年2月23日，新発田市；1984年2月26日，中魚沼郡津南町など）。

表10 鉄道の被害

被害の種類別	件数
n. 雪崩	10
a. 踏切	9
b. 吹きだまり, 大雪で立ち往生	9
c. その他	17

5. おわりに

59大雪に伴う雪害の実態をまとめた。本報告書は、新聞を通して得た情報であり、各分野の機関や担当者の資料とは異なる。これは新聞の情報がすべての雪害を、記事として取り扱うのではなく、新聞社の取り扱うニュースの量や価値によって、情報が取捨選択された記事を収集しているためである。

謝 辞

本報をまとめるに当り、雪害実験研究所第1研究室、納口恭明研究員ならびに山田穰室長に、素稿を読んでいただき、資料の整理にあたって有益な助言を頂いた。ここに感謝の意を表明します。

参考文献

- 1) 国立防災科学技術センター編(1977):日本の災害なだれ—山形県(1929~1975),新潟県(1945~1974)ならびに全国資料(1927~1976)—,防災科学技術研究資料,第27号.
(1984年10月17日 原稿受理)